

2020年度 活動報告

2020年度は、新型コロナウイルスの世界的大流行で幕が開け、私達は100年に一度と言われる危機に見舞われました。感染拡大を抑える対策を講じながら、当法人は歩みを止めずに活動を行って参りました。しかし、コロナ禍が長引くにつれ、感染予防対策を講じていても、当施設はいつクラスター感染が起ってもおかしくない状況が続きました。不安感から通所をキャンセルされるご利用者が相次ぐ中、ご利用者とスタッフの感染リスクの軽減を最優先に考え、当法人は通所から在宅支援に切り替えることを決断しました。最初は、戸惑われるご利用者が多かったものの、オーダーメイドで作成した支援ツールをご家庭でも使っていただけるよう配布したり、スタッフが毎日電話や家庭訪問を行うなど丁寧に対応することで、在宅支援を可能にしました。ご利用者やご家族のご理解とスタッフの涙ぐましい努力があったからこそ、押し寄せるコロナの波をご家族と共に乗り越えることができたと思っております。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。しかし、まだまだ予断を許さない日々が続いております。引き続きご利用者とスタッフの安全を最優先に考え取り組んで参りたいと思っております。

もう一つ、当法人にとって大きな決断がありました。毎年経営指針書をスタッフと共に作成し、10年ビジョン(※図1参照)の進捗を確認しております。この度のコロナショックにより社会の外部環境が変化した今、このまま計画通りに進めていくのかどうかを重点課題として話し合いました。その結果、計画を遅らせることなく進めていくということになりました。それは、来年度、奈良県明日香村に新規進出するという計画です。

奈良県明日香村は、1,400年にわたり守られてきた棚田や里山があり、村は「まるごと博物館づくり」を推進し、村内のどこを切り取っても日本の原風景を眺めることができる素晴らしい村です。明日香村は、その景観を保全していくため、昭和55年に明日香法を制定し、歴史的遺産を大切に残されてきました。

一方、農業の後継者不足で休耕地が増え、景観が損なわれつつあることや、人口減少などが村の課題となっていることを知りました。そこで、この村に発達障害者が貢献できることがあるのではないかと考えました。現在ピュアのご利用者のほとんどは軽作業に従事していただいておりますが、ご利用者の特性上、微細運動が求められる軽作業に合わない方も多数おられます。ご利用者の作業の選択肢を広げるためにも、身体を使った粗大運動が中心となる作業はないものかと探し続け、農事業に参画するといった発想に到りました。明日香村は、東大阪市より高速道路を使えば車で45分で到着することができます。この利便性を活かし、現地に事業所とグループホームを構え(※図2参照)、平日は農業に従事、休日は実家に帰ることもできるといった、「親から自立して働く」ことが可能になると考えました。将来的には第1次産業の農業から、生産した農作物を自社で加工し販売するといった第6次産業化を図り、「明日香産ブランド」を活かした商品開発を行いたいと夢を描いております。そして、無農薬で生産した野菜を使った農園カフェの併設や、明日香村の素晴らしい景観と地域性を活かした体験型観光農園に広げていきたいと考えております。これはまさにピュアが目指す「発達障害者と地域がつながり合う社会の実現」の第一歩です。地域に根付き、そしてこのコンセプトに共感し集まって下さった方々と共に、共生していく街づくりを実現していきたいと考えております。ご利用者の自立した暮らしを豊かにしていくためにも、この計画を推進していきたいと思っております。今後ともどうかご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長 檜尾めぐみ



※図1「ピュア10年ビジョン(2017年作成)」



※図2「奈良県明日香村計画 予想図」